令和６年度　さいたま市立土呂中学校　学校だより

見沼のほとり

第　６　号
令和６年８月２８日

学校教育目標　　主体的に生きる人間の育成　≪意欲・健康・豊かな心≫

諦（あきら）めない気持ち

校　長　　金子　慎一郎

この夏休み期間中にパリオリンピックが開催されました。今回の大会では金メダルを多数獲得することができ、選手の皆さんの活躍を観て元気が出ました。そのような中、私は男子体操団体の金メダルがとても印象に残っています。男子体操団体ではどんな逆境でも全員が団体金メダルという同じ方向を向いて、演技をつないでいきました。そしてエースの不調を全員で乗り越え、悲願の金メダルを手にしました。

競技途中、エースの橋本大輝選手にあん馬で落下のミスがでて、日本は中国に大きくリードを広げられ「優勝は中国」という雰囲気になり、観客の視線はメダル争いをしていたウクライナやアメリカへと移っていきました。

それでも日本のチームはキャプテンの萱和磨選手を中心に諦めていませんでした。テレビカメラに映らないところでもスタッフを含めて何度も何度も円陣を組んだそうです。それは３点余りの差をつけられて最終種目の鉄棒に向かう前にも見られ、キャプテンを中心に誰ひとりとして「絶対に諦めないぞ」と、繰り返し言葉を交わし合ったといいます。

萱選手は「点差を見てしまうと立ち直るのは大舞台になればなるほど大変。それでも団体戦なのでいくらでも励まし合って挽回できると思っていた。諦める理由がなかった」と話しました。そんな中、中国の選手が鉄棒で落下をしてしまい、暫定１位で最後の鉄棒種目を迎えました。鉄棒に向かう橋本選手の姿をチームメイトたちは全員で肩を組んで見守り、またチームメイトから背中を押してもらい、その思いを受けた橋本選手が最後にミスなく決めて奇跡と呼んでもいいような大逆転勝ちを果たしました。

選手にインタビューをしたとき、前日の夜のミーティングで改めて全員が金メダルへの思いを共有したといい、橋本選手は「自分がミスをしても仲間が『諦めんな』『つないでいこう』と声をかけてくれてくれた。自分はエースとしての大役を果たせなかった悔しい思いがあるが、本当に全員でつかんだ金メダルだと思う」と話していました。「絶対に諦めない」。言うのは簡単でも実行するのは難しいことばです。誰もがその思いを強く持ち、チーム一丸となったことが不可能を可能にした瞬間でした。

男子体操団体は前回の東京オリンピックでは僅差で金メダルを逃していました。日本はその悔しさを「忘れない」と、着地で１歩動いたり、手足がわずかにずれたりする細かなミスを出さないよう全員が意識してきました。悔しい思いをバネに日々の練習に活かし、さらに努力を継続した選手の皆さんは、中学生に対してもとても良い見本となったと思います。土呂中の部活動においてもキャプテンを中心に「絶対に諦めないぞ」と励まし合う姿が見られました。新人戦に向けて、新チームでは努力してきた力を発揮するためにぜひ参考にしてみてください。２学期はいろいろな行事が計画されています。生徒の皆さんはしっかりと準備をして取組んでいきましょう。

話は変わりますが、生徒昇降口前の花壇にヒマワリが花を咲かせて土呂中生を迎えています。このヒマワリの一部は、東日本大震災で多くの犠牲者があった石巻市立大川小学校のお母様方が育てているヒマワリの種を、縁あって分けていただいたものだそうです。ご来校の際には、ぜひご覧になってください。そして、いつまでも忘れることなく語りついでいきましょう。